SOPHOS

Cybersecurity made simple.

Sophos Enterprise Console アドバンス スタートアップガイド

製品バージョン: 5.5

目次

このガイドについて.....1
インストールにあたって.....2
Sophos Enterprise Console のインストールについて.....2
データベースのセキュリティについて.....4
コンピュータのグループについて.....5
セキュリティポリシーについて.....5
ネットワーク上のコンピュータの検出について.....5
コンピュータの保護について.....5
システム要件.....6
ハードウェアおよび OS.....6
マイクロソフトのシステムソフトウェア.....6
ポート要件.....7
必要なアカウント.....8
データベース用アカウント.....8
Update Manager アカウント.....9
Sophos Enterprise Console コンポーネントのインストール先について.....10
管理データベースを別のサーバーにインストールする方法.....11
追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法.....11
シナリオ 1: 管理ツールのインストール: データベースを別のサーバーにインストールする方法.....13
インストーラのダウンロード.....13
Sophos Enterprise Console データベースのインストール.....13
Sophos Enterprise Console のインストール - 管理コンソール、管理サーバー、アップデートマネージャ.....14
追加のリモート管理コンソールのインストール.....15
セキュリティソフトのダウンロード.....16
シナリオ 2: 追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法.....20
インストーラのダウンロード.....20
SEC のインストール - すべてのコンポーネント.....21
追加の SEC 管理コンソールのインストール.....22
追加のアップデートマネージャのインストール.....23
セキュリティソフトのダウンロード.....24
コンピュータグループの作成.....30
セキュリティポリシーの設定.....31
デフォルトポリシー.....31
ファイアウォールポリシーの設定.....31
ポリシーの作成・編集.....32
グループへのポリシーの適用.....32
コンピュータの検出.....33
コンピュータの保護の事前準備.....34
他社製セキュリティ対策ソフトを削除する準備.....34
ウイルス対策ソフトをインストールする準備.....34
Windows コンピュータおよび Mac の保護.....35
自動での Windows コンピュータの保護.....35
手動での Windows コンピュータや Mac の保護.....36
Linux コンピュータの保護.....37
ネットワークのセキュリティの状態の確認.....38
スタンドアロン コンピュータの保護.....39
スタンドアロン コンピュータのユーザーへの必要な情報の送信.....39
テクニカルサポート.....40
利用条件.....41

(2019/01/02)

1 このガイドについて

このガイドでは、Sophos Enterprise Console をアップグレードする方法について説明します。

Copyright © Sophos Limited

2 インストールにあたって

お使いのコンピュータを保護する主なステップは次のとおりです。

1. Sophos Enterprise Console をインストールする。
2. セキュリティソフトを社内ネットワーク上のフォルダ (各クライアントマシンに一斉配信できる場所) にダウンロードする。
3. 任意で Web サーバー上にセキュリティソフトを配置する。
4. コンピュータのグループを作成する。
5. セキュリティポリシーを各グループに対して設定する。
6. ネットワーク上のコンピュータを検索し、グループに配置する。
7. コンピュータを保護する。
8. ネットワークのセキュリティの状態を確認する。
9. 社内ネットワークに常に接続していないコンピュータを保護する。

注
Active Directory をお使いの場合は、一部のステップを自動的に処理できます。

このセクションでは、上記の各項目で選択する設定内容について説明します。

2.1 Sophos Enterprise Console のインストールについて

Sophos Enterprise Console (SEC) は、各コンピュータにセキュリティ対策ソフトを集中的にインストールし、インストールしたソフトウェアを管理します。

Enterprise Console には次の 4つのコンポーネントが含まれています。

管理コンソール	コンピュータの保護や管理を行います。
管理サーバー	アップデートや通信を処理します。
データベース	ネットワーク上のコンピュータに関するデータを保存します。
アップデートマネージャ	ソフォス製品やアップデート版をソフォスのサーバーからダウンロードし、各コンピュータが接続し、アップデートする社内サーバーに取り込みます。

管理コンソール

別のサーバーに追加のリモート管理コンソールのインスタンスをインストールすると、ネットワーク上のコンピュータを効率よく管理できます。この操作は、各ロールに対して管理コンソールへの管理権限を設定したり、IT 資産をサブ管理サイトに分割する場合に関連して行うものです。

Copyright © Sophos Limited

- ロールベースの管理: 管理コンソールへの管理権限を各ロール (役割) ごとに設定するには、まず、ロールを作成して権限を追加します。そして、Windows のユーザーやグループを作成したロールに追加します。たとえば、ヘルプデスク担当者は、コンピュータのアップデートやクリーンアップを実行できますが、ポリシー設定の権限は与えられていません。ポリシーの設定は、管理者ロールの役割です。
- サブ管理サイト: 各コンピュータやグループに対して、ユーザーが実行できる操作に制限を設けることができます。社内の IT 資産はサブ管理サイトとして分割し、管理コンソールのコンピュータのグループを追加できます。そして、Windows のユーザーやグループをサブ管理サイトに追加し、サブ管理サイトへのアクセスをコントロールできます。「デフォルト」サブ管理サイトには、管理コンソールで作成したすべてのグループと「**グループ外のコンピュータ**」が含まれます。

このガイドでは、追加の管理コンソールをインストールする方法について説明します。ロールベースの管理とサブ管理サイトの作成について、詳細は次の文章を参照してください。
www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/63556.aspx

データベース

データベースを別のサーバーに追加インストールする場合、次のような理由があります。

- データベースの容量が足りない。
- SQL Server 専用のサーバーを使っている。
- データベース処理にかかる負荷を複数のサーバーに分散させたい。

このガイドでは、データベースを他の Sophos Enterprise Console のコンポーネントと同じサーバーにインストールする方法や、別の専用のデータベースサーバーにインストールする方法について説明します。

注
データベースをスクリプトを使用して安全なサーバーにインストールしたり、クラスタ化された SQL サーバー環境にインストールしたりする必要がある場合は、次の文章を参照してください。
www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/33980.aspx

重要
ソフォス監査データベース「**SophosSecurity**」は、ソフォス監査機能を使用しない場合でも、他の Sophos Enterprise Console のデータベースと並行して稼働させておく必要があります。このデータベースは、監査イベントのログ記録の他、強化されたアクセスコントロール機能のためにも必要です。

アップデートマネージャ

アップデートマネージャでは、各エンドポイントに展開するソフトウェアを配置する共有フォルダを作成できます。保護されている各コンピュータは、この共有フォルダにアクセスし自動的にアップデートを実行します。アップデートマネージャは、必ず、Sophos Enterprise Console の一部としてインストールされます。デフォルトで、エンドポイント用ソフトウェアおよびアップデート版が、SophosUpdate という UNC シェアに配置されます。なお、大規模なネットワークの場合、他のサーバーにアップデートマネージャを追加インストールし、追加の共有フォルダを作成して、ソフトウェアを複数の場所に取り込んで展開することもできます。

一般に、ネットワーク上のクライアントコンピュータ 25,000台につき、追加のアップデートマネージャ 1つをインストールする必要があります。また、リモートの場所ごとに、追加のアップデートマネージャ 1つをインストールすることも推奨します。これによって、リモートの場所にあ

るエンドポイントコンピュータも、それぞれローカルのアップデート元からアップデートすることになるので、バンド幅を節減できます。また、リモートの場所にあるアップデート元との接続が途絶えてアップデートが正常に終了しない、という問題も回避することができます。

UNC パスで指定したアップデート用共有フォルダは、専用のファイルサーバーにある場合を除き、最高 1,000台のコンピュータで使用するようにしてください。一方、アップデート元として Web の場所を指定した場合は、約 10,000台のコンピュータで使用できます。

2.2 データベースのセキュリティについて

データベースを監査する

Enterprise Console のデータベースに組み込まれている保護機能の他に、SQL Server インスタンスに対して追加の保護レイヤーを設定し (未設定の場合)、ユーザーアクティビティや SQL Server への変更を監査することを推奨します。

たとえば、SQL Server 2008 Enterprise Edition を使用している場合は、SQL Server Audit 機能を使用できます。旧バージョンの SQL Server では、ビルトインのトレース機能を使用して、ログインの監査、トリガーを使用した監査、およびイベントの監査を実行できます。

SQL Server システムでのアクティビティおよび変更を監査するために使用できる機能の詳細は、該当するバージョンの SQL Server ドキュメントを参照してください。例:

- SQL Server Audit (データベース エンジン)
- 監査 (データベース エンジン)、SQL Server 2008 R2
- SQL Server 2008 の監査機能 (英語)
- 監査 (データベース エンジン)、SQL Server 2008

データベースへの接続を暗号化する

クライアントと Enterprise Console データベースの接続を暗号化することを強く推奨します。詳細は、次の SQL Server のドキュメントを参照してください。

- データベース エンジンへの暗号化接続の有効化 (SQL Server 構成マネージャー)
- SQL Server 2008 R2 への暗号化接続
- Microsoft 管理コンソールで SQL Server インスタンス用に SSL 暗号化を有効にする方法

データベースのバックアップへのアクセスをコントロールする

データベースのバックアップやコピーにはアクセス制限を設定し、適切なアクセスが行われるようコントロールしてください。これによって、未認証のユーザーがファイルにアクセスしたり、改ざん、または誤って削除したりすることを防止できます。

注
このセクションに記載されているリンクの参照先は第三者によって管理されている情報であり、リンクはお客様の便宜を図る目的に限って提供しています。ソフォスでは、リンク切れなどについて定期的に確認していますが、第三者の Web サイトによって予告なしにリンクが変更される場合があります。

Copyright © Sophos Limited

2.3 コンピュータのグループについて

保護するコンピュータをどのようにグループ分けするかを決めます。このベストプラクティスについては、www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/63556.aspxを参照してください。

2.4 セキュリティポリシーについて

セキュリティポリシーとは、1つ以上のコンピュータのグループに適用できる設定の集まりです。

Enterprise Console でグループを作成すると、デフォルトのポリシーが適用されます。このガイドの説明に従って、このポリシーを編集したり、または新しいポリシーを作成することができます。推奨する設定について詳細は、「Sophos Enterprise Console ポリシー設定ガイド」を参照してください。

2.5 ネットワーク上のコンピュータの検出について

ネットワーク上のコンピュータにセキュリティ対策ソフトをインストールする前に、必ずインポートしたコンピュータを Enterprise Console のコンピュータのリストに追加してください。コンピュータを検出し、リストに追加する方法について、詳細は Enterprise Console ヘルプを参照してください。

2.6 コンピュータの保護について

Windows が稼動しているコンピュータには、Enterprise Console からセキュリティ対策ソフトを自動インストールできます。

注
Sophos Client Firewall は、サーバー OS が稼動しているコンピュータにはインストールできません。

ネットワーク上に他の OS を実行しているコンピュータがある場合は、手動でインストールしたり、スクリプトを使用したり、あるいは Active Directory を利用するなど他の方法でソフトウェアをインストールする必要があります。このガイドでは、次の OS で手動インストールを行う方法について説明します。

- Windows
- Mac OS X

他の OS 環境での手動インストールに関する詳細は、「Sophos Enterprise Console スタートアップガイド Linux/UNIX 版」を参照してください。

3 システム要件

システム要件の一覧は、ソフォス Web サイトの「システム要件」ページを参照してください (http://www.sophos.com/ja-jp/products/all-system-requirements.aspx)。

言語対応など上記以外のシステム要件の詳細は、リリースノートの「追加情報」という項目を参照してください。

3.1 ハードウェアおよび OS

本製品のシステム要件は、ソフォス Web サイトの「システム要件」(www.sophos.com/ja-jp/products/all-system-requirements.aspx) を参照してください。

すべての Sophos Enterprise Console のコンポーネントは、専用のコンピュータにインストールすることを推奨します。

3.2 マイクロソフトのシステムソフトウェア

Sophos Enterprise Console のインストールには、データベースソフトなど、特定のマイクロソフトのシステムソフトウェアが必要です。

このようなシステムソフトウェアが対象のサーバーにインストールされていない場合は、Sophos Enterprise Console の製品インストーラが自動的にシステムソフトウェアのインストールを開始します。ただし、サーバーとシステムソフトウェアに互換性がない場合は手動によるインストールが必要です。

注
必要なシステムソフトウェアをインストール後、コンピュータの再起動が必要となることがあります。詳細は、https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/65190.aspxを参照してください。

SQL Server のインストール

既存の SQL Server 2005 Express 以降のインスタンスを使用することを選択しない限り、インストーラは自動的に SQL Server 2012 Express Edition サービスパック 4 (SP4) のインストールを開始します。以下の点に注意してください。

- SQL Server はドメイン コントローラ以外のコンピュータにインストールすることを推奨します。

.NET Framework のインストール

.NET Framework 4.x がインストールされていない場合は、インストーラが .NET Framework 4.5.2 のインストールを自動的に開始します。

Copyright © Sophos Limited

重要
.NET Framework 4.5.2 のインストールの一環として、一部のシステムサービス (IIS Admin Service など) が再起動することがあります。

.NET Framework 4.5.2 のインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。その場合は、インストール後ただちに、またはなるべく早く再起動することを推奨します。

Microsoft メッセージキューのインストール

MSMQ (Microsoft メッセージキュー) がインストールされていない場合は、インストーラが自動的にインストールを開始します。

重要
MSMQ のインストール中、次のサービスが停止します。MSDTC、MSSQLServer、SQLSERVERAGENT。このため、デフォルトの SQL Server データベースとの接続が中断されます。インストール中、これらのサービスが停止しても問題がないことを確認してください。また、操作終了後、サービスが再開したことも確認してください。

3.3 ポート要件

Sophos Enterprise Console では特定のポートが解放されている必要があります。詳細は、次の文章を参照してください。 http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/38385.aspx

4 必要なアカウント

ソフォス製品をインストールする前に、以下のユーザーアカウントを作成する必要があります。

- データベース用アカウント。管理サービスがデータベースに接続するための Windows ユーザーアカウントです。他のソフォスのサービスでも使用されます。

  データベース用アカウントの名前は、**SophosManagement** とすることを推奨します。

- Update Manager アカウント。Sophos Enterprise Console が製品アップデート版を配置するフォルダに、エンドポイント コンピュータがアクセスするための Windows ユーザーアカウントです。

  Update Manager アカウントの名前は、**SophosUpdateMgr** とすることを推奨します。

注
Windows のセキュリティグループ「Protected Users」のメンバーは、このアカウントに使用できません。マイクロソフト社のガイドラインでは、サービスアカウントをこのグループに含めるべきではないとしています。詳細は、https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/credentials-protection-and-management/protected-users-security-group を参照してください。サポートされていないため、作成するアカウントをこのグループに追加しないでください。

4.1 データベース用アカウント

データベース用アカウントが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Sophos Management Server (Sophos Enterprise Console のコンポーネント) のインストール先コンピュータにログオンする権限がある。
- システムの一時ディレクトリ (¥windows¥temp¥ など) に読み取り権限と書き込み権限がある。「Users」グループのメンバーには、デフォルトでこの権限があります。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。

これ以外に必要となる権限およびグループのメンバーシップは、インストール時に自動的に付与されます。

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 無期限に設定する。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- インストール後、アカウントを変更しない。
- アカウント名が **SophosManagement** である。

推奨事項や設定方法については、次の文章を参照してください。 https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/113954.aspx

Copyright © Sophos Limited

4.2 Update Manager アカウント

Update Manager アカウントには、Sophos Enterprise Console が製品アップデート版を配置するフォルダへの読み取り権限が必要です。デフォルトの場所は以下です。¥¥[サーバー名]¥SophosUpdate

以下のようにアカウントを設定することを推奨します。

- 無期限に設定する。また、その他のログオン制限を指定しない。
- アカウントに管理者権限がない。
- ドメインアカウントの場合は、UPN (ユーザープリンシパル名) が関連付けられている。
- アカウント名が **SophosUpdateMgr** である。

推奨事項や設定方法については、次の文章を参照してください。 https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/113954.aspx

5 Sophos Enterprise Console コンポーネントのインストール先について

Sophos Enterprise Console には次の 4つのコンポーネントが含まれています。

管理コンソール	コンピュータの保護や管理を行います。
管理サーバー	アップデートや通信を処理します。
データベース	ネットワーク上のコンピュータに関するデータを保存します。
アップデートマネージャ	ソフォス製品やアップデート版をソフォスのサーバーからダウンロードし、各コンピュータが接続し、アップデートする社内サーバーに取り込みます。

Sophos Enterprise Console のコンポーネントを別々のサーバーにインストールする場合は、それらのサーバーすべてを同じドメインに配置することをお勧めします。

Sophos Enterprise Console データベースはドメイン コントローラ以外のコンピュータにインストールすることを推奨します。

このガイドでは 2とおりのインストールシナリオについて説明します。

- 管理データベースを別のサーバーにインストールする方法
- 追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法

それぞれのシナリオで、ネットワーク上の Sophos Enterprise Console のコンポーネントの配置が異なります。

Copyright © Sophos Limited

5.1 管理データベースを別のサーバーにインストールする方法

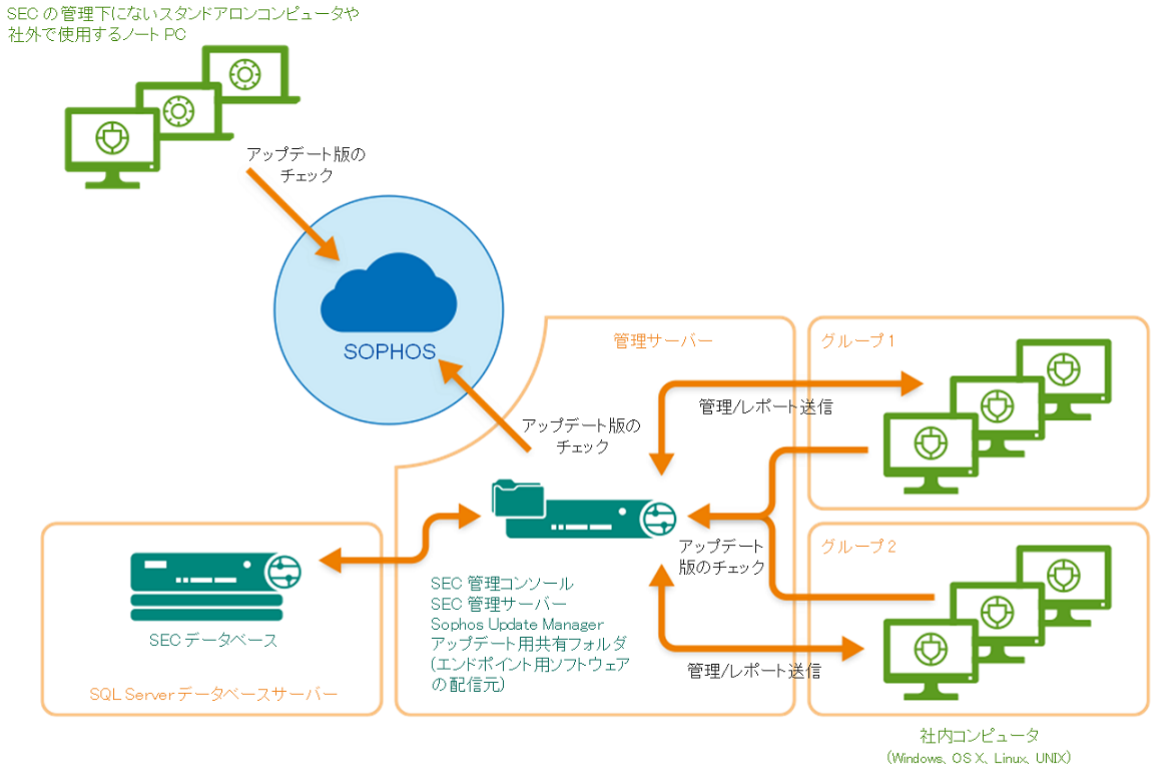

図 1：インストールシナリオの例: 管理データベースを別のサーバーにインストールする

このシナリオを使用する場合は、インストーラのダウンロード (p. 13)に進んでください。

5.2 追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法

このシナリオには、各アップデートマネージャのアップデート元を設定する方法が 2とおりあります。

1つ目の方法は次のとおりです。

- SEC 管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャを、直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする。
- メインのアップデートマネージャから、追加のアップデートマネージャにアップデート版を取り込む。

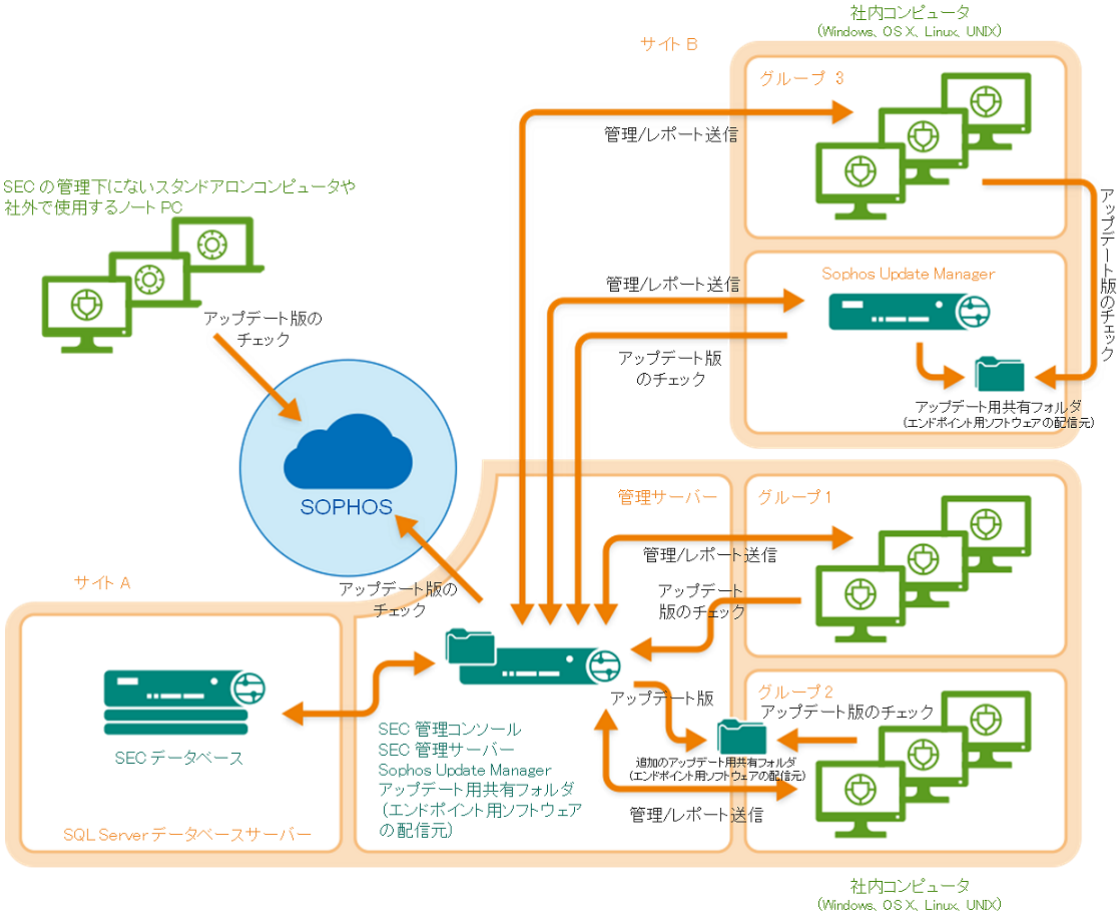

図 2：インストールシナリオの例: 追加のアップデートマネージャをメインのアップデートマネージャからアップデートする

2つ目の方法は次のとおりです。

- 追加のアップデートマネージャを、直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする。
- 追加のアップデートマネージャから、SEC 管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャにアップデート版を取り込む。

どちらの方法を選択する場合でも、このインストールシナリオを使用するには、シナリオ 2: 追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法 (p. 20)に進んでください。

Copyright © Sophos Limited

6 シナリオ 1: 管理ツールのインストール: データベースを別のサーバーにインストールする方法

6.1 インストーラのダウンロード

注
インストーラは任意のコンピュータにダウンロードし、その後、ソフトウェアをインストールするコンピュータにコピーすることもできます。

1. Sophos ID を使って、次のサイトにログインします。https://www.sophos.com/ja-jp/support/downloads.aspx

   注
   Sophos ID に関する詳細は、ソフォスのサポートデータベースの文章 111195 を参照してください。

2. ダウンロードするためにログインしたことがある場合は、「**製品・アップデート版のダウンロード**」ページが表示されます。

   注
   はじめてログインする場合は、プロファイルが表示されます。「**Endpoint and Server Protection**」をクリックして、「**Downloads and Updates**」をクリックします。

3. 「**Console**」の下で、「**Sophos Enterprise Console**」をクリックして、インストーラをダウンロードします。

6.2 Sophos Enterprise Console データベースのインストール

注
データベースをスクリプトを使用して安全なサーバーにインストールしたり、クラスタ化された SQL サーバー環境にインストールしたりする必要がある場合は、次の文章を参照してください。
www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/33980.aspx

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降の場合)。UAC はデータベースをインストールした後で、有効に設定し直せます。

管理者権限でログオンします。

- サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
- サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. ダウンロードした Sophos Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このサーバー上のフォルダのみ指定できます。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、「**データベース**」を選択し、「**管理コンソール**」と「**管理サーバー**」の選択を外します。

   b) 「**データベースの詳細**」ページで、このサーバーと、Sophos Enterprise Console の管理サーバーをインストールするサーバーの両方にログインできるアカウントの情報を入力します。サーバーが共にドメインに属している場合は、ドメインアカウントを使用できます。サーバーが共にワークグループに属している場合は、両方のサーバーにアクセスできるローカルアカウントを使用してください。管理者アカウントは使用しないでください。

   注
   このデータベースアカウントは、データベース用アカウント (p. 8)で作成したものです。

Sophos Enterprise Console のウィザード完了後、プロンプト表示されたらサーバーを再起動してください。

ユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

6.3 Sophos Enterprise Console のインストール - 管理コンソール、管理サーバー、アップデートマネージャ

Sophos Enterprise Console の管理コンソール、管理サーバー、およびアップデートマネージャをインストールするサーバーに移動します。サーバーがインターネットに接続されていることを確認します。

このサーバーのホスト名は、アップデートマネージャをインストールする他のサーバーのホスト名とは異なっている必要があります。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降の場合)。UAC は、Sophos Enterprise Console をインストールし、ソフォス アップデートに登録した後で、有効に設定することができます。

管理者権限でログオンします。

- サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
- サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. ダウンロードした Sophos Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。

 Copyright © Sophos Limited

2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このサーバー上のフォルダのみ指定できます。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、「**管理コンソール**」と「**管理サーバー**」を選択し、「**データベース**」の選択を外します。

   b) 「**データベースの詳細**」ページで、別のサーバーに作成した Sophos Enterprise Console のデーターベースの場所と名前を入力します。このサーバーと、Sophos Enterprise Console のデータベースをインストールしたサーバーの両方にログインできるアカウントの情報を入力します。サーバーが共にドメインに属している場合は、ドメインアカウントを使用できます。サーバーが共にワークグループに属している場合は、両方のサーバーにアクセスできるローカルアカウントを使用してください。管理者アカウントは使用しないでください。

   注
   このデータベースアカウントは、データベース用アカウント (p. 8)で作成したものです。

インストールが完了したら、ログオフ、またはサーバーを再起動します (ウィザードの最後の画面にどちらかのオプションが表示されます)。ログインし直すと、Sophos Enterprise Console が自動的に開き、セキュリティソフトのダウンロード ウィザードが起動します。ここではウィザードをキャンセルし、このガイドの説明の順序に従い、後で起動します。

6.4 追加のリモート管理コンソールのインストール

別のコンピュータに追加の Sophos Enterprise Console 管理コンソールのインスタンスをインストールすると、ネットワーク上のコンピュータを効率よく管理できます。必要ない場合は、このセクションは読み飛ばしてください。

重要
管理サーバー上で実行されているのと同じバージョンの Sophos Enterprise Console をインストールする必要があります。

注
新しく追加したコンソールは、Sophos Enterprise Console 管理サーバーをインストールしたサーバーにアクセスする必要があります。そのサーバーでファイアウォールを使用している場合、コンソールからアクセスできるようにファイアウォールの設定が必要なことがあります。リモートコンソールから管理サーバーへの DCOM トラフィックを許可するファイアウォールルールを追加する方法は、サポートデータベースの文章 49028 を参照してください。

追加の管理コンソールをインストールする方法は次のとおりです。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降 または Windows Vista 以降の場合)。UAC は管理コンソールをインストールした後で、有効に設定し直せます。

管理者権限でログオンします。

- コンピュータがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。

- コンピュータがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. ダウンロードした Sophos Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このコンピュータ上のフォルダのみ指定できます。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、「**管理コンソール**」を選択し、「**管理サーバー**」と「**データベース**」の選択を外します。

   b) 「**管理サーバー**」ページで、Sophos Enterprise Console 管理サーバーをインストールしたサーバーの名前を入力します。

   注
   管理サーバーをインストールする際にポートを変更した場合は、必ず、このページでも同じポートを指定する必要があります。

   c) ドメイン環境の場合、Sophos Enterprise Console データベースへの接続に使用するユーザーアカウントを入力します。

   このアカウントは Sophos Enterprise Console データベースをインストールする際に入力したアカウントです。また、Sophos Enterprise Console の管理サーバーをインストールしたサーバーの Sophos Management Host サービスでも同じアカウントが使用されいています。

ウィザードが完了したら、ログオフ、またはコンピュータを再起動します (ウィザードの最後の画面にどちらかのオプションが表示されます)。ログインし直すと、Sophos Enterprise Console が自動的に開きます。「**セキュリティソフトのダウンロード ウィザード**」が起動した場合は、キャンセルします。

インストールの前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

追加の管理コンソールの使用を他のユーザーに許可するには、次の手順を実行してください。

- 管理サーバーをインストールしたサーバー上の **Sophos Console Administrators** グループと、**Distributed COM Users** グループに、ユーザーを追加する。
- 少なくとも 1つの Sophos Enterprise Console ロールとサブ管理サイトに、ユーザーを追加する。

6.5 セキュリティソフトのダウンロード

各クライアントマシンへ一斉配信できるようにセキュリティソフトを社内のサーバーに取り込むには、インストールしたアップデートマネージャを設定する必要があります。次のどちらかまたは両方の方法で設定できます。

自動でのアップデートマネージャの設定 (p. 17): この手順に従ってウィザードを起動します。

- サポートされる各 OS 用セキュリティソフトウェアをダウンロードできます。
- 最新の推奨バージョンのみをダウンロードできます。
- ダウンロード先は共有フォルダ ¥¥サーバー名¥SophosUpdate のサブフォルダのみです。ここでサーバー名は、アップデートマネージャがインストールされているサーバーの名前です。

 Copyright © Sophos Limited

手動でのアップデートマネージャの設定 (p. 17): この手順に従ってアップデートマネージャを直接設定します。

- サポートされる各 OS 用セキュリティソフトウェアをダウンロードできます。
- プレビューバージョンまたは以前のバージョンをダウンロードできます。
- ダウンロード先は、上記とは別の共有フォルダ (複数可) です。別のサーバー上の共有フォルダを指定することもできます。

6.5.1 自動でのアップデートマネージャの設定

1. Sophos Enterprise Console で、「**アクション**」メニューの「**セキュリティソフトのダウンロード ウィザードの実行**」をクリックします。
2. 「**ソフォス ダウンロード用アカウントの詳細**」ページで、ライセンスの別表 (License Schedule) に記載されているユーザー名とパスワードを入力します。プロキシサーバー経由でインターネットにアクセスする場合は、「**プロキシサーバー経由でソフォスにアクセスする**」チェックボックスを選択します。
3. 「**OS の選択**」ページで保護するプラットフォームを選択します。
   「**次へ**」をクリックすると、Sophos Enterprise Console が選択したソフトウェアのダウンロードを開始します。
4. 「**ソフトウェアをダウンロードしています**」ダイアログボックスに、ダウンロードの進行状況が表示されます。随時、「**次へ**」をクリックします。
5. Sophos Enterprise Console で既存の Active Directory のコンピュータのグループを利用する場合は、「**Active Directory からコンピュータをインポートします**」ページで、「**コンピュータグループを設定する**」チェックボックスを選択します。

   注
   1つのコンピュータが複数の Active Directory のコンテナに配置されている場合、そのコンピュータと Sophos Enterprise Console との間で常にメッセージが送受信される問題が発生します。

選択したソフトウェアが共有フォルダ ¥¥サーバー名¥SophosUpdate にダウンロードされます。ここでサーバー名はアップデートマネージャがインストールされているサーバーです。

Sophos Enterprise Console をインストールする前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

次に、必要に応じてアップデートマネージャを手動で設定します。

6.5.2 手動でのアップデートマネージャの設定

Sophos Enterprise Console をインストールする前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

1. Sophos Enterprise Console で、「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. アップデートマネージャを自動的に設定していない場合は、アップデート元を「Sophos」に設定します。
   a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、このサーバーにインストールされているアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。
   b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「追加」をクリックします。

c) 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスの「**アドレス**」ボックスから「**Sophos**」を選択します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、ソフォスから入手したダウンロード用アカウントの詳細を入力します。

d) プロキシサーバー経由でアップデート元に接続する場合は、「**プロキシサーバーを使用して接続する**」チェックボックスを選択します。プロキシサーバーの「**アドレス**」と「**ポート**」番号を入力します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、プロキシサーバーに接続するためのアカウント情報を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名¥ユーザー名 という形式で入力してください。

e) 「**OK**」をクリックして「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスを閉じます。
「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブの一覧に「**Sophos**」が表示されます。

f) 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。

3. ダウンロードするソフトウェアを登録します。

a) 「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ペインで次の手順を実行します。

- 既存のサブスクリプションを変更するにはダブルクリックします。
- 新しいサブスクリプションを追加するには、ペイン上部の「**追加**」をクリックします。

b) 新しいサブスクリプションを追加する場合は、「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション名**」ボックスにサブスクリプション名を入力します。

c) プラットフォームのリストから対象のソフトウェアの横にあるチェックボックスを選択し、「バージョン」の一覧から適切なバージョンを選択します。

通常、ソフトウェアを自動的に最新の状態に保つために、「**Recommended**」(推奨バージョン) を選択します。利用できるその他のソフトウェアのバージョンについては、Sophos Enterprise Console ヘルプのソフトウェアのサブスクリプションの設定に関するセクションを参照してください。

d) 「**OK**」をクリックして「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスを閉じます。

e) 変更、または追加する各サブスクリプションに対して、ここでのステップを繰り返してください。

4. アップデートマネージャを設定し、これらのサブスクリプションを使用するようにします。

a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、このサーバーにインストールされているアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。

b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション**」タブの「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストにサブスクリプションが表示されていることを確認します。表示されていなければ、「**選択可能アイテム**」リストからサブスクリプションを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに追加します。

5. ¥¥サーバー名¥SophosUpdate 以外の共有にダウンロードする場合は以下の手順を実行します。

a) 「**配布**」タブをクリックします。

b) タブ上部のリストで使用するサブスクリプションが選択されていることを確認します。

c) 「**追加**」をクリックします。

d) 「**フォルダの参照**」ダイアログボックスで共有フォルダを参照します。「**OK**」をクリックします。

e) 「**選択可能アイテム**」リストから共有フォルダを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**アップデート先**」リストに追加します。

 Copyright © Sophos Limited

f) 共有フォルダの説明や、書き込み用アカウントの詳細を入力するには、共有フォルダを選択し、「**環境設定**」をクリックします。「**共有マネージャ**」ダイアログボックスで、説明とアカウント情報を入力します。

g) 各共有フォルダに対してこの手順を繰り返します。

6. 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。選択したソフトウェアは、指定した共有フォルダへダウンロードされます。

これで、管理ツールのインストールが完了しました。次に、コンピュータグループの作成 (p. 30)へ進みます。

7 シナリオ 2: 追加のアップデートマネージャを別のサーバーにインストールする方法

このシナリオには、各アップデートマネージャのアップデート元を設定する方法が 2とおりあります。

1つ目の方法は次のとおりです。

- 管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャを、直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする。
- メインのアップデートマネージャから、追加のアップデートマネージャにアップデート版を取り込む。

2つ目の方法は次のとおりです。

- 追加のアップデートマネージャを、直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする。
- 追加のアップデートマネージャから、管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャにアップデート版を取り込む。

2つ目の方法は、メインの Sophos Enterprise Console サーバーをインターネットに接続しない場合に利用できます。

どちらの方法を選択するかによって次の点が異なります。

- インターネットへの接続が必要となるサーバーが異なります。これより後のセクションで、インストール先のサーバーをインターネットに接続するタイミングを説明します。
- 各クライアントマシンへ一斉配信できるようにセキュリティソフトを社内のサーバーに取り込む方法が異なります。設定する際に該当するセクションを選択してください。
- Enterprise Console でパッチ評価機能を使用できるか、できないかが異なります。使用する場合は、1つ目の方法を選択してください。

7.1 インストーラのダウンロード

注
インストーラは任意のコンピュータにダウンロードし、その後、ソフトウェアをインストールするコンピュータにコピーすることもできます。

1. Sophos ID を使って、次のサイトにログインします。https://www.sophos.com/ja-jp/support/downloads.aspx

   注
   Sophos ID に関する詳細は、ソフォスのサポートデータベースの文章 111195 を参照してください。

2. ダウンロードするためにログインしたことがある場合は、「**製品・アップデート版のダウンロード**」ページが表示されます。

Copyright © Sophos Limited

注
はじめてログインする場合は、プロファイルが表示されます。「**Endpoint and Server Protection**」をクリックして、「**Downloads and Updates**」をクリックします。

3. 「**Console**」の下で、「**Sophos Enterprise Console**」をクリックして、インストーラをダウンロードします。

7.2 SEC のインストール - すべてのコンポーネント

Sophos Enterprise Console のすべてのコンポーネントをインストールするサーバーに移動します。これからインストールするアップデートマネージャを直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする場合は、インストール先のサーバーがインターネットに接続されていることを確認してください。

このサーバーのホスト名は、アップデートマネージャをインストールする他のサーバーのホスト名とは異なっている必要があります。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降の場合)。UAC は、Sophos Enterprise Console をインストールし、ソフォス アップデートに登録した後で、有効に設定することができます。

管理者権限でログオンします。

- サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
- サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. ダウンロードした Sophos Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このサーバー上のフォルダのみ指定できます。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、すべてのコンポーネントが選択されていることを確認します。

   b) 「**データベースの詳細**」ページで、このサーバーにログインできるアカウントの情報を入力します。サーバーがドメインに属している場合は、ドメインアカウントを使用できます。サーバーがワークグループに属している場合は、そのサーバーにアクセスできるローカルアカウントを使用してください。管理者アカウントは使用しないでください。

   注
   このデータベースアカウントは、データベース用アカウント (p. 8)で作成したものです。

インストールが完了したら、ログオフ、またはサーバーを再起動します (ウィザードの最後の画面にどちらかのオプションが表示されます)。ログインし直すと、Sophos Enterprise Console が自動的に開き、セキュリティソフトのダウンロード ウィザードが起動します。ここではウィザードをキャンセルし、このガイドの説明の順序に従い、後で起動します。

7.3 追加の SEC 管理コンソールのインストール

別のコンピュータに追加の Sophos Enterprise Console 管理コンソールのインスタンスをインストールすると、ネットワーク上のコンピュータを効率よく管理できます。必要ない場合は、このセクションは読み飛ばしてください。

重要
管理サーバー上で実行されているのと同じバージョンの Sophos Enterprise Console をインストールする必要があります。

注
新しく追加したコンソールは、Sophos Enterprise Console 管理サーバーをインストールしたサーバーにアクセスする必要があります。そのサーバーでファイアウォールを使用している場合、コンソールからアクセスできるようにファイアウォールの設定が必要なことがあります。リモートコンソールから管理サーバーへの DCOM トラフィックを許可するファイアウォールルールを追加する方法は、サポートデータベースの文章 49028 を参照してください。

追加の管理コンソールをインストールする方法は次のとおりです。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降 または Windows Vista 以降の場合)。UAC は管理コンソールをインストールした後で、有効に設定し直せます。

管理者権限でログオンします。

- コンピュータがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
- コンピュータがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. ダウンロードした Sophos Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。このコンピュータ上のフォルダのみ指定できます。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**コンポーネントの選択**」ページで、「**管理コンソール**」を選択し、「**管理サーバー**」と「**データベース**」の選択を外します。

   b) 「**管理サーバー**」ページで、Sophos Enterprise Console 管理サーバーをインストールしたサーバーの名前を入力します。

      注
      管理サーバーをインストールする際にポートを変更した場合は、必ず、このページでも同じポートを指定する必要があります。

   c) ドメイン環境の場合、Sophos Enterprise Console データベースへの接続に使用するユーザーアカウントを入力します。

      このアカウントは Sophos Enterprise Console データベースをインストールする際に入力したアカウントです。また、Sophos Enterprise Console の管理サーバーをインストール

Copyright © Sophos Limited

したサーバーの Sophos Management Host サービスでも同じアカウントが使用されいています。

ウィザードが完了したら、ログオフ、またはコンピュータを再起動します (ウィザードの最後の画面にどちらかのオプションが表示されます)。ログインし直すと、Sophos Enterprise Console が自動的に開きます。「**セキュリティソフトのダウンロード ウィザード**」が起動した場合は、キャンセルします。

インストールの前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

追加の管理コンソールの使用を他のユーザーに許可するには、次の手順を実行してください。

- 管理サーバーをインストールしたサーバー上の **Sophos Console Administrators** グループと、**Distributed COM Users** グループに、ユーザーを追加する。
- 少なくとも 1つの Sophos Enterprise Console ロールとサブ管理サイトに、ユーザーを追加する。

7.4 追加のアップデートマネージャのインストール

重要
アップデートマネージャを追加インストールするサーバーに、Sophos Enterprise Console の管理コンソールを追加インストールする場合は、必ず最初に追加コンソールをインストールしてください。この手順の詳細は、追加の SEC 管理コンソールのインストール (p. 22)を参照してください。

追加のアップデートマネージャをインストールするサーバーに移動します。これからインストールするアップデートマネージャを直接ソフォスのサーバーに接続し、アップデート版をダウンロードする場合は、インストール先のサーバーがインターネットに接続されていることを確認してください。

このサーバーのホスト名は、アップデートマネージャをインストールする他のサーバーのホスト名とは異なっている必要があります。

ネットワーク探索機能を無効にしている場合、有効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降の場合)。

ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、無効にし、サーバーを再起動します (Windows Server 2008 以降の場合)。UAC は、アップデートマネージャをインストールし、ソフォス アップデートに登録した後で、有効に設定することができます。

管理者権限でログオンします。

- サーバーがドメインに属している場合は、ローカル管理者権限を持つドメインアカウントを使用してください。
- サーバーがワークグループに属している場合は、ローカル管理者権限を持つローカルアカウントを使用してください。

1. Sophos Enterprise Console をインストールしたサーバーの「SUMInstallSet」という共有フォルダを参照します。
2. Setup.exe をダブルクリックしてインストーラを起動します。

   インストール ウィザードの指示に従ってインストールを行います。オプションはデフォルトの設定をそのまま選択します。

Sophos Enterprise Console で管理するアップデートマネージャがインストールされます。

7.5 セキュリティソフトのダウンロード

このシナリオには、各アップデートマネージャのアップデート元を設定する方法が 2とおりあります。どちらか適切な方法を選択してください。

- メインのアップデートマネージャによるソフォスからのアップデート版のダウンロード (p. 24)
- 追加のアップデートマネージャによるソフォスからのアップデート版のダウンロード (p. 27)

7.5.1 メインのアップデートマネージャによるソフォスからのアップデート版のダウンロード

メインのアップデートマネージャを設定して、ソフォスから直接アップデートするようにする

SEC 管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャを設定して、ソフォスから直接アップデートするようにしてください。次のどちらかまたは両方の方法で設定できます。

自動でのメインのアップデートマネージャの設定 (p. 24): この手順に従ってウィザードを起動します。

- サポートされる各 OS 用セキュリティソフトウェアをダウンロードできます。
- 最新版のみをダウンロードできます。
- ダウンロード先は共有フォルダ ¥¥サーバー名¥SophosUpdate のサブフォルダのみ。ここでサーバー名は、メインのアップデートマネージャがインストールされているサーバーの名前です。

手動でのメインのアップデートマネージャの設定 (p. 25): この手順に従ってメインのアップデートマネージャを直接設定します。

- サポートされる各 OS 用セキュリティソフトウェアをダウンロードできます。
- 以前のバージョンをダウンロードできます。
- ダウンロード先は、上記とは別の共有フォルダ (複数可) です。別のサーバー上の共有フォルダを指定することもできます。

その他の利用可能なソフトウェアのバージョンについては、Sophos Enterprise Console ヘルプを参照してください。

追加のアップデートマネージャを設定して、メインのアップデートマネージャからアップデートするようにする

追加のアップデートマネージャの設定 (p. 26)を行うと、メインのアップデートマネージャから、追加のアップデートマネージャにアップデート版が取り込めるようになります。

自動でのメインのアップデートマネージャの設定

1. Sophos Enterprise Console で、「**アクション**」メニューの「**セキュリティソフトのダウンロード ウィザードの実行**」をクリックします。

Copyright © Sophos Limited

2. 「**ソフォス ダウンロード用アカウントの詳細**」ページで、ライセンスの別表 (License Schedule) に記載されているユーザー名とパスワードを入力します。プロキシサーバー経由でインターネットにアクセスする場合は、「**プロキシサーバー経由でソフォスにアクセスする**」チェックボックスを選択します。
3. 「**OS の選択**」ページで保護するプラットフォームを選択します。
   「**次へ**」をクリックすると、Sophos Enterprise Console が選択したソフトウェアのダウンロードを開始します。
4. 「**ソフトウェアをダウンロードしています**」ダイアログボックスに、ダウンロードの進行状況が表示されます。随時、「**次へ**」をクリックします。
5. Sophos Enterprise Console で既存の Active Directory のコンピュータのグループを利用する場合は、「**Active Directory からコンピュータをインポートします**」ページで、「**コンピュータグループを設定する**」チェックボックスを選択します。

   注
   1つのコンピュータが複数の Active Directory のコンテナに配置されている場合、そのコンピュータと Sophos Enterprise Console との間で常にメッセージが送受信される問題が発生します。

選択したソフトウェアが共有フォルダ ¥¥サーバー名¥SophosUpdate にダウンロードされます。ここでサーバー名はアップデートマネージャがインストールされているサーバーです。

Sophos Enterprise Console をインストールする前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

次に、必要に応じてアップデートマネージャを手動で設定します。次に、追加のアップデートマネージャの設定 (p. 26)へ進んでください。

手動でのメインのアップデートマネージャの設定

Sophos Enterprise Console をインストールする前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

1. Sophos Enterprise Console で、「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. アップデートマネージャを自動的に設定していない場合は、アップデート元を「Sophos」に設定します。
   a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、このサーバーにインストールされているアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。
   b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「**追加**」をクリックします。
   c) 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスの「**アドレス**」ボックスから「**Sophos**」を選択します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、ソフォスから入手したダウンロード用アカウントの詳細を入力します。
   d) プロキシサーバー経由でアップデート元に接続する場合は、「**プロキシサーバーを使用して接続する**」チェックボックスを選択します。プロキシサーバーの「**アドレス**」と「**ポート**」番号を入力します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、プロキシサーバーに接続するためのアカウント情報を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名¥ユーザー名 という形式で入力してください。
   e) 「**OK**」をクリックして「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスを閉じます。
   「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブの一覧に「**Sophos**」が表示されます。

f) 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。

3. ダウンロードするソフトウェアを登録します。

   a) 「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ペインで次の手順を実行します。

      - 既存のサブスクリプションを変更するにはダブルクリックします。
      - 新しいサブスクリプションを追加するには、ペイン上部の「**追加**」をクリックします。

   b) 新しいサブスクリプションを追加する場合は、「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション名**」ボックスにサブスクリプション名を入力します。

   c) プラットフォームのリストから対象のソフトウェアの横にあるチェックボックスを選択し、「バージョン」の一覧から適切なバージョンを選択します。

      通常、ソフトウェアを自動的に最新の状態に保つために、「**Recommended**」(推奨バージョン) を選択します。利用できるその他のソフトウェアのバージョンについては、Sophos Enterprise Console ヘルプのソフトウェアのサブスクリプションの設定に関するセクションを参照してください。

   d) 「**OK**」をクリックして「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスを閉じます。

   e) 変更、または追加する各サブスクリプションに対して、ここでのステップを繰り返してください。

4. アップデートマネージャを設定し、これらのサブスクリプションを使用するようにします。

   a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、このサーバーにインストールされているアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。

   b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション**」タブの「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストにサブスクリプションが表示されていることを確認します。表示されていなければ、「**選択可能アイテム**」リストからサブスクリプションを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに追加します。

5. 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。

   選択したソフトウェアは、このサーバーにインストールしたアップデートマネージャにダウンロードされます。

追加のアップデートマネージャの設定

1. Sophos Enterprise Console で、「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. 追加のアップデートマネージャのアップデート元にメインのアップデートマネージャを指定します。

   a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、追加のアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。

   b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「**追加**」をクリックします。

   c) 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスの「**アドレス**」ボックスから、メインのアップデートマネージャがダウンロードしたソフトウェアを配置する共有フォルダを選択します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、この共有フォルダへのアクセスに必要なアカウント情報が自動的に挿入されます。

   d) プロキシサーバー経由でアップデート元に接続する場合は、「**プロキシサーバーを使用して接続する**」チェックボックスを選択します。プロキシサーバーの「**アドレス**」と「**ポート**」番号を入力します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、プロキシサーバーに接続するた

Copyright © Sophos Limited

めのアカウント情報を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名¥ユーザー名 という形式で入力してください。

e) 「**OK**」をクリックして「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスを閉じます。
メインのアップデートマネージャがダウンロードしたソフトウェアを配置する共有フォルダは、「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブに表示されます。

3. アップデートマネージャを設定して、先程設定したサブスクリプションを使用するようにします。
   - 「**サブスクリプション**」タブの「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストにサブスクリプションが表示されていることを確認します。表示されていなければ、「**選択可能アイテム**」リストからサブスクリプションを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに追加します。
4. ¥¥サーバー名¥SophosUpdate 以外の共有にダウンロードする場合は以下の手順を実行します。
   a) 「**配布**」タブをクリックします。
   b) タブ上部のリストで使用するサブスクリプションが選択されていることを確認します。
   c) 「**追加**」をクリックします。
   d) 「**フォルダの参照**」ダイアログボックスで共有フォルダを参照します。「**OK**」をクリックします。
   e) 「**選択可能アイテム**」リストから共有フォルダを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**アップデート先**」リストに追加します。
   f) 共有フォルダの説明や、書き込み用アカウントの詳細を入力するには、共有フォルダを選択し、「**環境設定**」をクリックします。「**共有マネージャ**」ダイアログボックスで、説明とアカウント情報を入力します。
   g) 各共有フォルダに対してこの手順を繰り返します。
5. 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。
選択したソフトウェアは、次回行われるスケジュールアップデート時に、指定した共有フォルダへダウンロードされます。

これで、管理ツールのインストールが完了しました。

7.5.2 追加のアップデートマネージャによるソフォスからのアップデート版のダウンロード

追加のアップデートマネージャを設定して、直接ソフォスのサーバーからアップデート版をダウンロードする方法は、追加のアップデートマネージャによるソフォスからのアップデート版のダウンロード (p. 27)を参照してください。

SEC 管理コンソールと一緒にインストールされるメインのアップデートマネージャを設定して、追加のアップデートマネージャからアップデートを行う方法は、メインのアップデートマネージャの設定 (p. 29)を参照してください。

追加のアップデートマネージャの設定

Sophos Enterprise Console をインストールする前にユーザーアカウント制御を無効にした場合は、ここで有効に設定し直してください。

1. Sophos Enterprise Console で、「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. 追加のアップデートマネージャのアップデート元にソフォスを指定します。

a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、追加のアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。

b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「**追加**」をクリックします。

c) 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスの「**アドレス**」ボックスから「**Sophos**」を選択します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、ソフォスから入手したダウンロード用アカウントの詳細を入力します。

d) プロキシサーバー経由でアップデート元に接続する場合は、「**プロキシサーバーを使用して接続する**」チェックボックスを選択します。プロキシサーバーの「**アドレス**」と「**ポート**」番号を入力します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、プロキシサーバーに接続するためのアカウント情報を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名¥ユーザー名 という形式で入力してください。

e) 「**OK**」をクリックして「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスを閉じます。
「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブの一覧に「**Sophos**」が表示されます。

f) 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。

3. ダウンロードするソフトウェアを登録します。

a) 「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ペインで次の手順を実行します。

- 既存のサブスクリプションを変更するにはダブルクリックします。
- 新しいサブスクリプションを追加するには、ペイン上部の「**追加**」をクリックします。

b) 新しいサブスクリプションを追加する場合は、「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション名**」ボックスにサブスクリプション名を入力します。

c) プラットフォームのリストから対象のソフトウェアの横にあるチェックボックスを選択し、「バージョン」の一覧から適切なバージョンを選択します。

通常、ソフトウェアを自動的に最新の状態に保つために、「**Recommended**」(推奨バージョン) を選択します。利用できるその他のソフトウェアのバージョンについては、Sophos Enterprise Console ヘルプのソフトウェアのサブスクリプションの設定に関するセクションを参照してください。

d) 「**OK**」をクリックして「**ソフトウェアのサブスクリプション**」ダイアログボックスを閉じます。

e) 変更、または追加する各サブスクリプションに対して、ここでのステップを繰り返してください。

4. アップデートマネージャを設定し、これらのサブスクリプションを使用するようにします。

a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、追加のアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。

b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**サブスクリプション**」タブの「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストにサブスクリプションが表示されていることを確認します。表示されていなければ、「**選択可能アイテム**」リストからサブスクリプションを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに追加します。

5. 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。

選択したソフトウェアは、追加のアップデートマネージャにダウンロードされます。

 Copyright © Sophos Limited

メインのアップデートマネージャの設定

1. Sophos Enterprise Console で、「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックします。
2. メインのアップデートマネージャのアップデート元に追加のアップデートマネージャを指定します。
   a) 「**アップデートマネージャ**」ペインで、このサーバーにインストールされているアップデートマネージャを選択します。右クリックして「**環境設定の表示/編集**」をクリックします。
   b) 「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブで、「**追加**」をクリックします。
   c) 「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスの「**アドレス**」ボックスから、追加のアップデートマネージャがダウンロードしたソフトウェアを配置する共有フォルダを選択します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、この共有フォルダへのアクセスに必要なアカウント情報が自動的に挿入されます。
   d) プロキシサーバー経由でアップデート元に接続する場合は、「**プロキシサーバーを使用して接続する**」チェックボックスを選択します。プロキシサーバーの「**アドレス**」と「**ポート**」番号を入力します。「**ユーザー名**」と「**パスワード**」ボックスに、プロキシサーバーに接続するためのアカウント情報を入力します。「ユーザー名」とドメイン名をあわせて指定する必要がある場合は、ドメイン名¥ユーザー名 という形式で入力してください。
   e) 「**OK**」をクリックして「**アップデート元の詳細**」ダイアログボックスを閉じます。
   追加のアップデートマネージャがダウンロードしたソフトウェアを配置する共有フォルダは、「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスの「**アップデート元**」タブに表示されます。
3. アップデートマネージャを設定して、先程設定したサブスクリプションを使用するようにします。
   - 「**サブスクリプション**」タブの「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストにサブスクリプションが表示されていることを確認します。表示されていなければ、「**選択可能アイテム**」リストからサブスクリプションを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**ダウンロードするサブスクリプション**」リストに追加します。
4. ¥¥サーバー名¥SophosUpdate 以外の共有にダウンロードする場合は以下の手順を実行します。
   a) 「**配布**」タブをクリックします。
   b) タブ上部のリストで使用するサブスクリプションが選択されていることを確認します。
   c) 「**追加**」をクリックします。
   d) 「**フォルダの参照**」ダイアログボックスで共有フォルダを参照します。「**OK**」をクリックします。
   e) 「**選択可能アイテム**」リストから共有フォルダを選択して「**>**」ボタンをクリックし、「**アップデート先**」リストに追加します。
   f) 共有フォルダの説明や、書き込み用アカウントの詳細を入力するには、共有フォルダを選択し、「**環境設定**」をクリックします。「**共有マネージャ**」ダイアログボックスで、説明とアカウント情報を入力します。
   g) 各共有フォルダに対してこの手順を繰り返します。
5. 「**OK**」をクリックして「**アップデートマネージャの環境設定**」ダイアログボックスを閉じます。
   選択したソフトウェアは、次回行われるスケジュールアップデート時に、指定した共有フォルダへダウンロードされます。

これで、管理ツールのインストールが完了しました。

8 コンピュータグループの作成

コンピュータを保護・管理する前に、コンピュータのグループを作成する必要があります。

1. Sophos Enterprise Console を開きます。
2. コンソールの左側にある「**グループ**」ペインで、最上部に表示されているサーバーが選択されていることを確認します。
3. ツールバーで、「**グループの作成**」アイコンをクリックします。
   「新規グループ」がリストに追加され、グループ名がハイライト表示されます。
4. グループ名を入力します。

さらにグループを作成する場合は、左ペインで次のように操作します。トップレベルのグループを再度作成するには、ツリー最上部のサーバー名を選択します。サブグループを作成するには、既存のグループ名を選択します。次に、先程と同じ手順でグループを作成し、グループ名を入力します。

Copyright © Sophos Limited

9 セキュリティポリシーの設定

セキュリティポリシーとは、1つ以上のコンピュータのグループに適用できる設定の集まりです。

Enterprise Console は、デフォルトポリシーをコンピュータのグループに適用します。ここで説明する内容は次のとおりです。

- デフォルトポリシーの概要とその変更について。
- ポリシーの作成・編集。
- コンピュータグループへのポリシーの適用。

9.1 デフォルトポリシー

Sophos Enterprise Console は、各種の「デフォルト」というセキュリティポリシーをコンピュータのグループに適用します。これらのデフォルトポリシーに必要な設定は以下のとおりです。これ以外の変更は任意です。

- ファイアウォールポリシーは、すぐに設定する必要があります。
- アプリケーション コントロール、データコントロール、デバイスコントロール、タンパープロテクション、パッチ、エクスプロイト対策、または Web コントロール機能を使用する場合は、該当する各ポリシーを編集する必要があります。この操作は、いつ行っても構いません。

ポリシーの設定の詳細は、「Sophos Enterprise Console ポリシー設定ガイド」を参照してください。

9.2 ファイアウォールポリシーの設定

注
ファイアウォールのインストール中、ネットワークアダプタが一時的に切断されます。また、リモート デスクトップなどのネットワークアプリケーションが切断されることがあります。

デフォルトの設定では、ファイアウォールは重要な接続以外はすべて遮断します。したがって、各コンピュータに設定を適用して保護する前に、ファイアウォール ポリシーの設定を行う必要があります。

1. 「**ポリシー**」ペインで、「**ファイアウォール**」を右クリックし、「**ポリシーの作成**」を選択します。
   「**新規ポリシー**」がリストに追加され、ポリシー名がハイライト表示されます。使用するグループ名を入力します。
2. ポリシーをダブルクリックして編集します。
   ウィザードが起動します。
3. 「**ファイアウォールのポリシー ウィザード**」で、次のように設定することを推奨します。
   a) 「**ファイアウォールの環境設定**」ページで、接続場所に応じて、異なるファイアウォールの設定を使い分ける場合以外は、「**1種類の設定 (固定マシン用)**」を選択します。
   b) 「**操作モード**」ページで、「**受信トラフィックをブロックし、送信トラフィックを許可する**」を選択します。

c) 「**ファイルとプリンタの共有**」ページで、「**ファイルとプリンタの共有を許可する**」を選択します。

9.3 ポリシーの作成・編集

1. Sophos Enterprise Console で、「**ポリシー**」ペイン (画面左下) が表示されていない場合は、「**表示**」メニューで、「**エンドポイント**」をクリックします。
2. 「**ポリシー**」ペインで、次のいずれかの手順を実行します。
   - 新しいポリシーを作成するには、「**アップデート**」など、作成するポリシーの種類を右クリックし、「**ポリシーの作成**」をクリックします。
   - デフォルトポリシーを編集するには、編集するポリシーの種類をダブルクリックします。次に、「**デフォルト**」を選択します。

   ポリシーを作成すると、「**新規ポリシー**」がリストに追加され、ポリシー名がハイライト表示されます。使用するグループ名を入力します。
3. ポリシーをダブルクリックし、必要に応じて内容を設定してください。

ポリシーを作成した場合は、作成したポリシーをコンピュータグループに適用してください。

9.4 グループへのポリシーの適用

- 「**ポリシー**」ペインで、適用するグループに、ポリシーをドラッグします。

注
または、各グループを右クリックして、「**グループポリシーの詳細の表示/編集**」を選択します。表示されるドロップダウンメニューから、そのグループに対するポリシーを選択できます。

Copyright © Sophos Limited

10 コンピュータの検出

「**セキュリティソフトのダウンロード**」ウィザードを使用して、(Active Directory のグループを基に) コンピュータグループを設定した場合は、ここで説明する操作は必要ありません。

Sophos Enterprise Console でコンピュータの保護と管理を行うには、まずネットワーク上のコンピュータを検出する必要があります。

1. ツールバーにある「**コンピュータの検出**」アイコンをクリックします。
2. コンピュータの検索方法を選択してください。
3. 適宜、アカウントの詳細を入力し、検索場所を指定します。

「**検出**」オプションのいずれかを選択すると、検出されたコンピュータは「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに追加されます。

11 コンピュータの保護の事前準備

11.1 他社製セキュリティ対策ソフトを削除する準備

現在インストールされているセキュリティソフトをアンインストールする場合は、次の手順を実行してください。

1. 他社製のウイルス対策ソフトを実行しているコンピュータで、そのウイルス対策ソフトの GUI が閉じていることを確認します。

   注
   スタンドアロン製品、または Sophos Central の一機能として、HitmanPro.Alert がインストールされていることがあります。HitmanPro.Alert は、Sophos Enterprise Console からオンプレミス型の管理を適用する前に削除する必要があります。

2. 他社製のファイアウォールや HIPS 製品を実行しているコンピュータで、これらのソフトウェアを無効にするか、またはソフォス製品のインストーラの起動を許可するように設定します。

他社製のアップデートツールを実行している場合は、削除した方がよい場合があります。詳細は Enterprise Console ヘルプを参照してください。

11.2 ウイルス対策ソフトをインストールする準備

ウイルス対策ソフトをインストールする前に、コンピュータの準備を行う必要があります。詳細は、ソフォス エンドポイント展開ガイド (英語) (https://docs.sophos.com/esg/enterprise-console/tools/deployment_guide/en-us/index.html) の「コンピュータへの導入の準備をする」セクションを参照してください。

保護するコンピュータでは、ファイアウォールを有効化することを推奨します。

注
保護を完了し、そのコンピュータが Sophos Enterprise Console に「管理対象コンピュータ」として表示されたら、コンピュータへのリモートインストールを許可するために作成した、すべてのファイアウォールの例外設定を無効に設定しなおすことを検討してください。

Copyright © Sophos Limited

12 Windows コンピュータおよび Mac の保護

12.1 自動での Windows コンピュータの保護

ここでは、Sophos Enterprise Console で、Windows ベースのコンピュータを自動で保護する方法について説明します。

任意のツールやスクリプトを使用して Windows コンピュータに保護機能をインストールすることもできます。詳細は、次の文章を参照してください。 www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/114191.aspx

注
Sophos Client Firewall をインストールする際、すべてのネットワークアダプタが一時的に切断されます。最長 20秒間ネットワークに接続できなくなります。また、Microsoft Remote Desktop などのネットワークアプリケーションが切断されます。

1. Sophos Enterprise Console で、保護するコンピュータを選択します。
2. 次のいずれかの手順を実行してください。
   - コンピュータがグループに追加されている場合は、右クリックし「**コンピュータの保護**」を選択します。
   - コンピュータが「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに表示されている場合は、適切なグループにドラッグします。

   ウィザードの指示に従ってソフォスのセキュリティソフトをインストールします。以下に説明のないオプションは、デフォルトの設定をそのまま選択します。

   a) 「**機能の選択**」ページで、インストールする追加機能を選択します。

   b) インストール中に問題が発生した場合は、「**保護のサマリー**」ページでその詳細を確認します。詳細は、トラブルシューティング (p. 35)を参照してください。

   c) 「**アカウント情報**」ダイアログボックスで、各コンピュータへのソフトウェアのインストールに使用できるアカウントの詳細を入力します。

選択したコンピュータには、セキュリティソフトがインストールされます。インストールはすべてのコンピュータで同時に開始されないので、操作がすべて完了するまで時間がかかることがあります。一部のコンピュータでは、インストールの完了に再起動が必要となることがあります。

インストール完了後、コンピュータのリストをもう一度確認します。「**オンアクセス**」カラムに表示される「**アクティブ**」は、コンピュータで脅威のオンアクセス検索が実行されていることを表します。

12.1.1 トラブルシューティング

「コンピュータの保護」ウィザードを実行した際に、セキュリティソフトのインストールに失敗することがありますが、考えられる原因は次のとおりです。

- 使用している OS で自動インストールを実行することができない。この場合は、手動でインストールを行います。他の OS の保護がライセンスで許諾されている場合は、その詳細について「Sophos Enterprise Console スタートアップガイド Linux/UNIX 版」を参照してください。
- OS が認識されない。これは、コンピュータの検索を行った際に、「ドメイン¥ユーザー名」形式でユーザ名を入力しなかったことが原因の場合があります。
- セキュリティ対策ソフトを展開するために必要なアクセスが、ファイアウォールのルールによってブロックされている。

12.2 手動での Windows コンピュータや Mac の保護

12.2.1 手動での Windows コンピュータの保護

保護を実施するコンピュータで管理者アカウントを使用する必要があります。

1. 保護を実施する各コンピュータで、インストーラの場所を参照し、setup.exe をダブルクリックします。
2. 「**ソフォス - セットアップ**」ダイアログボックスの「**ユーザーアカウントの詳細**」に、先ほど作成した Update Manager アカウント **SophosUpdateMgr** の詳細を入力します。Sophos Enterprise Console が製品アップデート版を配置する共有フォルダにアクセスする際に、このアカウントを使用します。Update Manager アカウント (p. 9)で作成したアカウントです。

ヒント
「インストーラの場所」にアクセスできる、権限の低い任意のアカウントを使用することもできます。後で、Sophos Enterprise Console によって正しいアカウントの詳細を含むアップデートポリシーが適用されます。

注
setup.exe ファイルで使用するコマンドラインパラメータについての詳細は、次の文章を参照してください。https://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/12570.aspx

12.2.2 Mac の保護

保護を実施する Mac で管理者アカウントを使用する必要があります。

1. 保護を実施する各 Mac で、インストーラの場所を参照します。Sophos Installer.app インストーラファイルおよび Sophos Installer Components ディレクトリを任意の場所 (デスクトップなど) にコピーし、ダブルクリックします。

   ウィザードの指示に従ってインストールを行います。
2. オプションはデフォルトの設定をそのまま選択します。メッセージが表示されたら、Mac でソフトウェアのインストールに使用できるユーザーアカウントを入力します。

Copyright © Sophos Limited

12.3 Linux コンピュータの保護

Linux コンピュータの保護がライセンスで許諾されている場合は、その方法の詳細について、「Enterprise Console スタートアップガイド Linux/UNIX 版」を参照してください。

13 ネットワークのセキュリティの状態の確認

Sophos Enterprise Console でネットワークのセキュリティの状態を確認するには次の手順を実行します。

メニューバーの「**ダッシュボード**」アイコン (ダッシュボードが表示されていなければ) をクリックします。
ダッシュボードには次の情報が表示されます。

- 「警告を発したコンピュータ」の台数。
- 「最新版が適用されていないコンピュータ」の台数。
- 「ポリシーと異なるコンピュータ」の台数。

Copyright © Sophos Limited

14 スタンドアロン コンピュータの保護

従業員が自宅で使用するコンピュータなど一部のコンピュータは、社内ネットワークに接続することがないため、管理者が簡単にアクセスできません。このようなコンピュータを保護する場合、ユーザー自身が「スタンドアロン」インストーラを使用してソフォスのセキュリティソフトをインストールする必要があります。インストールしたソフトウェアはインターネット経由で最新の状態に保たれます。方法は次の 2とおりから選べます。

- ユーザーが次のサイトからソフトウェアをダウンロードする。 www.sophos.com/ja-jp/support/downloads/standalone-installers/esc-for-windows-2000-up.aspxユーザーは、ソフトウェアをインストールし、ソフォスからアップデート版を取得するよう設定します。
- ソフトウェアとインストール以降のアップデート版を社内の Web サイトから再配信する。ユーザーは社内の Web サイトからソフトウェアをダウンロード、インストールし、社内の Web サイトからアップデート版を取得するよう設定します。社内の Web サイトからソフォス製品のアップデート版を再配信する方法については、次の文章を参照してください。 www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/38238.aspx

14.1 スタンドアロン コンピュータのユーザーへの必要な情報の送信

社内ネットワークに接続していないユーザーには、次の情報を送信してください。

- セキュリティソフトをダウンロードする場所 (CD を配布する場合は不要)。
- Sophos Endpoint Security and Control スタンドアロン スタートアップガイド。
- ダウンロードに必要なユーザー名およびパスワード (ソフォス Web サイトから直接、または自社 Web サイトからダウンロードするどちらの場合でも)。

アカウント情報を送信する際は次の点にご注意ください。

- ウイルスに感染しているコンピュータにメール送信しないでください。アカウント情報が盗まれる恐れがあります。
- 必要な場合は、郵送やファックスで送付してください。

15 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- ユーザー コミュニティ サイト「Sophos Community」(英語) (community.sophos.com/) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。www.sophos.com/ja-jp/support.aspx
- 製品ドキュメントのダウンロード。www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx
- オンラインでのお問い合わせ。 https://secure2.sophos.com/ja-jp/support/contact-support/support-query.aspx

Copyright © Sophos Limited

16 利用条件

Copyright © 2018 Sophos Limited.All rights reserved.この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos、Sophos Anti-Virus および SafeGuard は、Sophos Limited、Sophos Group および Utimaco Safeware AG の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。